

クラブ野球リーグ構築5カ年計画に関する意見書

都県	球場の手配	リーグ戦試合日程の作成	審判員の確保	記録員の確保	試合球
茨城	クラブチームは県内各所に点在している。メインとなる球場の確保、また、地域性や日程に合わせた球場の確保が必要。 検討事項：各年度の幹事チーム、開催場所、借用手配、球場使用料の負担、支払い手続き	都市対抗、クラブ選手権、日本選手権とは区別して自主運営リーグを取り入れる。2試合総当りを希望する意見が多数であったが、1試合総当りでも15日間が必要であり、今後、各チームの実情を調査し具体策とする必要あり。	自主運営に当たっては、連盟所属審判員に加えて各クラブチームから代表者が必要。県連盟主催の審判講習会(年3回実施)に受講させレベルアップを図る。当面は県連盟所属審判員を中心に実施とするが将来的にはクラブチーム選出の審判員をメインに考えたい。	各チームマネージャーを対象にした記録講習会を実施し、記録員の確保とレベルアップを図る。 検討事項：講師及び講習会の開催、頻度	当該チームの持ち寄りであることも可能であるが、クラブの運営資金を考慮し、半分は県連盟で負担を検討。
群馬	各チームとも課題としてマークしている。現状、球場の手配は、県連盟が申し込み、代表者が調整会議に出席し日程の確保が出来ており、各大会の日程も決定している。款式の開催が多く新たに球場を確保することは難しい。	球場の確保、審判、アナウンス、カウント、記録、ボール拾い、ボール、ロージン、カップ等の手配は県連盟により行っており、クラブチームとして日程の作成には自信が持てないのではないか。	最悪、球審だけで塁審は各チームより出させてもよいと考えているのではないかと。	各チームともマネージャーが担当しており、問題な時と受け取れる。	当該対戦チーム同士合せて試合をするという考えである。
栃木	現在11チームが加盟。1試合総当りとしても65試合、1日2~3試合を2つの会場で実施しても10週が必要である。一方で硬式球を使用できる球場を土日で押さえることは不可能。平日であれば可能であるが、逆に選手が集まれない。	現状の公式戦の日程を鑑みると約10週~20週を確保しなければならない。チームの希望より会場の都合に合わせた形での試合日程作成になってしまう。	現状、チームOBの審判員はほとんどいない。今連盟に登録している審判員が上記日程に全て合わせるに負担が集中する。各市にある審判部との連携が必要。	現状、宇都宮の審判部と全足利のマネージャーが担当しているが、6名ほどのメンバーであり、リーグ戦を加えると負担が集中する。	チームにより負担の異なるが、2試合1日でも30ダース必要となる。あたりの負担は35ダースで4万円ほど。多少ボールの使用ということでもチーム負担増と捉えられ、理解を得ることが思われる。
千葉	各チームとも自主運営の課題のトップに球場の確保を挙げている。(ア)各チームが硬式野球の出来る市営球場を確保する。(イ)県内の企業チームのグラウンドを借用する。(JFE、新日鐵)(ウ)県野球連盟が公営球場を確保する。以上で年間どこまで球場を確保できるかがポイントである。	県内クラブチーム側は2試合総当りを希望しているが、休日では細かい事情を考慮すると球場を手配の上、(ア)現7チームによる1試合総当り21試合でスタートが現実的。(1日3試合7日間)	千葉県野球連盟には20名の審判員がおり、数的には問題はないが経費面を考慮し、(ア)球審を県連盟の審判員、(イ)塁審は各チームで。	現状各チームとも正確に記録できるマネージャーがいない。(ア)各チームマネージャーに対する講習会を実施し、各クラブチーム内で確保する方向とする。	(ア)1試合1ダースを2チームが半分ずつ。
埼玉	年度当初の予定に基づき、協会事務局において県内各球場調査委員会におき、各関係団体との日程調整のうえ年間決定をみる。	理事会(各チーム代表者)において全チーム参加の元日程作成し提出。	日程表に基づき、審判部に要請。同部において割り当て実施し連達する。	試合当日の当該チームにて、協会において編成作成し連達する。	原則的に両チームに持ち寄りが基本である。新球・再生球を準備し、両チームの負担軽減を図る。
東京A	各チームでの独自の確保は難しい。企業チームの選任や休日時に利用させていただきたい。	クラブ選手権、都市対抗とは別で考えている。6月~11月で行うのがベスト。	各チームで出し合ってもよいが、経費は分担することとして連盟に派遣をお願いする。	各チームマネージャーが記録し、事務局で集計。	1試合各チーム1ダースも出す。(計2ダース)
東京B	企業チームのグラウンド使用に対する協力、市町村の公営球場確保に対する支援をお願いしたい。	1試合総当り(7チーム⇒合計21試合⇒1日3試合⇒7日間)案、各リーグ上位2チームで決勝トーナメント(4チーム⇒3試合⇒1日)案	2審、または3審での派遣を東京連盟にお願いする。また、塁審は軟式連盟審判員にも協力を要請する。	各チームで必ず1名を準備する。(リーグ参加資格として正しくスコアを記入できるチームであることが望ましい。)	公認球にこだわらずに新球を使用する。検査は審判にゆだねる。
神奈川	基本的に休日に球場を使用したいが、現状では確保が難しい。球場使用料も抑える確保はさらに難しくなる。高校・大学のグラウンドを借用すれば、自主運営リーグ戦実施の可能性は出てくる。但し、休日の使用が制限される恐れもある。クラブチーム側として球場確保に対する協会のバックアップをお願いしたい。	試合日程の作成は出来ると思うが、当初は協会の力が必要である。現状の大会日程は、3月に県大会、4月・5月に都市対抗1次、4月に足利大会、5月に新潟大会、6月に都市対抗2次、8月に日本選手権1次、8月に日本選手権2次、10月にびわこ大会と関東クラブ選手権となっており、日程的に無理がある。11月にしか時間は取れない。	審判員の確保は出来るが、試合数が増えると審判交通費が負担になってくる。審判2人制により経費負担を少なくしたい。	企業とクラブのマネージャーで公式記録を担当しているため、公式記録が出来るクラブチームのマネージャーが増えてきているので確保できる。また、今後人員増を目指す。	1試合1ダース以下に両チームで試合球を準備する。また、大会などでボールを再利用する。
山梨	山梨県は年度当初に年間予定がQ決まる。急な日程は無理。また、山梨県はグラウンドが少ない。	都市対抗1次、2次、クラブ選手権1次、2次、日本選手権1次、2次の合間に実施する。	球審は件連盟にて確保、塁審は各チームで充てる。	試合のないチームで分担する。	チームの持ち寄り(3つ)

	経費負担	運営	規約(規則)等	その他
りて対応が、各クラブに不足すること	自主運営リーグの運営に当たっては、各チーム負担を原則とするが、10チームによる総当たり戦を実施した場合の経費負担は総額238万円(15,8万円/日)であり、チームと連盟の負担割合、またチーム負担の範囲については慎重に検討する必要がある。	各クラブチーム側の意見としては、都市対抗、クラブ選手権、日本選手権とは別に自主運営リーグを実施し、レベルアップを図りたい意向であり各チームの運営を原則とする。チームから選出する運営スタッフと連盟スタッフと協力して運営に当たる体制を検討する。	各クラブチームが自主的に運営することを踏まえ、開催要項の作成に当たっては各クラブチームから委員を選出して議論の上、規約を設け、理事会及び総会で承認する方向で検討する。	
で出し考えている	球場使用料、審判員交通費、アナウンス、カウント、記録、ボール拾い等の協力にかかる謝礼や弁当代など不安に思っている。	運営に自信が持てないようである。	実施する場合、最低限おき役を定める必要がある。	
考え方が異なるとしてより、1チームが、金少額だったことであつたことかか難いことか	連盟の運営は現在の公式大会の予選を消化することで精一杯でありこれ以上の大会補助は難しい。各チームが自己負担で対応する以外に方法はない。各チーム負担が度の程度であれば可能か調査が必要である。現状、技術レベルだけでなく運営への関わり方、費用負担し得る額など考え方に大きな違いがある。	各地区の大学リーグの運営方法に習い検討していく。あくまで自主運営を基本とするのであれば、各チームの自立を促すことも必要になっていく。	各地区の大学リーグの規則に倣い検討していくほかないと思われる。	
の使用とースを出	必要経費:審判5,000円、球場使用料10,000円、諸経費5,000円で合計20,000円/試合。各チームが1試合10,000円負担で運営したいところである。	クラブチームで組織をつくり、自主運営を基本とする。ただし、当面は県連盟のバックアップが必要。(グラウンド、審判)	(ア)大会実施要項を作成し、(特にペナルティー)規律ある試合とすることが大事。(イ)上位チームには各種大会への出場等	
において持てるが、協会より準備してチームに持っている。	各試合1チーム2万円とし、協会へ納入している。以後の管理は全て協会が行っている。	当日の当該チーム及び前後のチームにて実施している。協会は理事等を派遣し総括運営を担当、全体指揮に当たる。	特に設定はしていない。	現実問題としてチームグループによる会場の予約・審判員の確保等は無理である。(当県ではリーグパンフレットも500部作成している。)
ースずつ持ス)	参加チームの会費でまかなう。			
ず、各チーム。(ボールの三ねる。)	各チームが持ち合う。また、リーグ戦を援助、支援していただけの連盟、企業、地方団体を誘致する。	東京都クラブリーグ委員会(仮称)を設立して運営していくのが望ましい。	当該年度の公認野球規則、社会人野球内規を適用する。コールドゲーム、延長戦、サスペンデッド等、クラブリーグ特別ルールの適用も考える。	
に抑える。費を負担するで使用したる。	審判派遣料、球場使用料、試合球、審判員弁当代などの経費を少なく出来れば可能。例えば、審判の2人制、高校・大学のグラウンド使用、各大会で使用したボールの再利用など。	クラブ中心の運営には不安がある。今後仕事をリタイヤした方の補助が必要になってくる。	自主運営リーグはかなり難しい。現場サイドには前向きな意見があるが、運営サイド(監督・マネージャー・コーチ)からは厳しい意見が強い。日理的にも経費的にも非常に厳しいので現行制度の中で参加していきたい。試合数が少ないと感じるクラブがあるが、やはり、上に集まっている意味のある大会目標しているので今のままがよいと考える。試合数が少ないチームはオープン戦を増やしてレベルを上げることでリーグ戦を行うより経費負担はかからない。リーグ戦は、審判経費、球場使用料、試合球等の負担がそのまま各クラブチームにかかると思う。	神奈川県としては来年度以降に支援を申し出ている外部団体から県内のクラブチームを対象にした大会開催の意向があるため、その実施と成功に力を注ぎたい。クラブチームの育成とともに地域の子供や学生たちに野球教室や試合を通じて社会人野球をもっとほしいこと。プロ野球とは違った社会人野球の持つその真実さ、野球に対する技術はもちろん生涯スポーツとしての野球を知ることで将来の目標と合わせて野球の素晴らしさを学んでほしいという考えの下地域貢献をしていきたいというもの。そして、将来的には神奈川県内の企業チームを招待し、アマチュア最高レベルの野球を将来を担う子供たちに関近で見せたいというもの。
日(半ダース)	各チームで費用を分担。連盟からの支援が必要。	各チームが委員を立てて運営に当たる。	将来的には必要と思われる。	

← 神奈川県